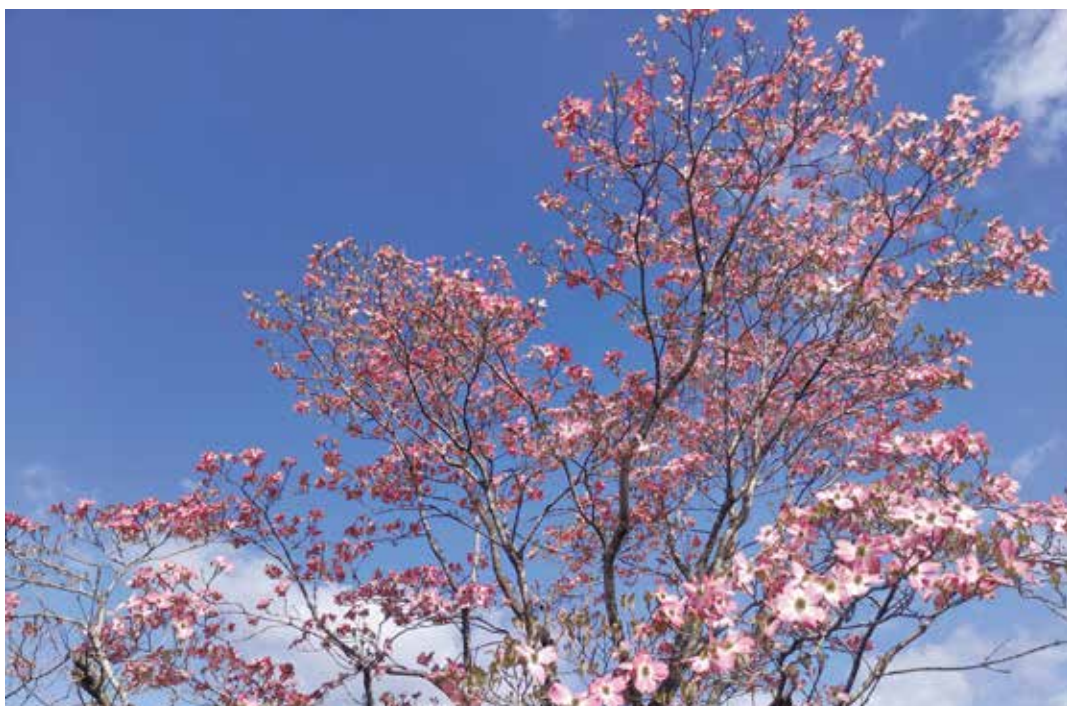




てんよりあめ雨くんだり 雪おちて復かへらず 地をうるほして物をはえしめ 萌をいだしめて播
ものに種をあたへ 食ふものに糧をあたふ

—イザヤ書 第55章 10節—

*For as the rain cometh down, and the snow from heaven, and returneth not thither,
but watereth the earth, and maketh it bring forth and bud, that it may give seed to the
sower, and bud, that it may give seed to the sower, and bread to the eater:*

—ISAIAH 55:10—

新生

第 45 巻
春 号
新 生 会 広 報

平和の時を

山口雅稔

長崎の聖母の騎士修道院の桜が、今年も美しく咲きました。一年で一度だけ短い期間しか咲かないイキな満開の桜の花の下で日向ぼっこをしていると色々な気づきがあります。桜は、俺は美しいだろう、と威張ったり、こんなに頑張つて咲いたんだからわたしを認めて！と承認欲求が強いことなどないでしょう。いくら美しく咲いても、木の下に強制的に人を引っ張り込んだりもしません。人が見ていようと見ていまいとありのままに花を咲かせます。そんな自由な桜の花だから、ともにいるわたしの心は和みます。

また、わたしの欠点や弱さ、罪深さに関係なく、出し惜しみすることなくその美しさを存分に表してくれます。善人にも悪人にも分け隔てなく花はありのまま咲いています。そして、花を鑑賞する者に報酬など求めません。無報酬であり続けます。桜の花はただただありのままにそこに存在するだけです。花が咲けば人は自然に喜びます。小鳥たちも喜んでいてるのかのように花から花へと飛びまわっています。そこには強制や支配などの圧力はありません。しばらく一人で満開の桜の下に

ると、人と比較して自分を過大評価したり、過小評価したりと自己顕示や自己卑下する自分から解放され自由になってきます。桜があらのままに自由であるので、こちらもありのままに自由でいられます。そして、神さまの神秘といのちの不思議さを感じます。日々の生活の中でこのような平和の時を充てることによって、ご自分の似姿にと神さまが創造された神さまの子どもらしい人間の在り方になっていくのでしょうか。新生会の利用者さんはそのような平和の時に恵まれ、平安を実感しているのではないのでしょうか。

これから初夏にかけてたくさんの花が活き活きと咲いてきます。その自然の美しさを味わう平和の時が、一刻でも早くウクライナに訪れますように、新しく生命が芽生えるこの季節、イエスさまの死と復活を記念し思い起こす新生の時に切に祈ります。

山口雅稔

群馬県伊勢崎市出身。コンベン
ツアル聖フランシスコ修道会・カ
トリック司祭／聖母の騎士修道
院院長／「聖母の騎士」編集長



原 慶子

新型コロナウイルスワクチンの
副作用に警戒を

新型コロナウイルスも変異しながら三年目となり、数字的には増加の傾向のようです。そんな状況で政府機関は三回目のワクチン接種を半ば強要しております。今回は「ウイルスの世紀——なぜ繰り返し出現するのか——山内一也・みずす書房二〇二〇年発行」を通して、コロナワクチンについてお話ししたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の病原体がコロナウイルスです。ワクチンには、第一・第二・第三世代と三種ありますが、新型コロナウイルス感染症のワクチンは第三世代（一九八〇年代から）のもので、この時から組換えDNA技術によるワクチンの時代になったのです。このワクチンには現在、ベクターワクチン。DNAワクチン、mRNAワクチンなどがあります。

①「ベクターワクチン」ベクターとは運び屋を意味する。ベクターには防御タンパク質の遺伝子が組み込まれているため、ベクターワクチンが感染した細胞内で防御タンパク質を増殖させることができる。

②「DNAワクチン」は、防御タンパク質の遺伝子であるDNAを大腸菌の中で増やしたものである。これを筋肉内に接種し、その結果細胞内でタンパク質を産出させ、体内でサブユニットワクチンを作らせる。

③「mRNAワクチン」細胞内でDNAからタンパク質が合成される際は、DNAの情報がメッセンジャー(m)RNAに転写され、mRNAが酸素によつて翻訳されてタンパク質ができあがる。安全性を高め、体内で効率よく翻訳されるように設計されている。これらのワクチンの開発技術の著しい進展とは異なり、ワクチンの副作用についての理解はそれほど深まっています。とくに、コロナウイルスに対するワクチンは「抗体依存性感染増強(ADE)」という副作用の問題を抱えています。そのメカニズムは解明されていません。ワクチンは軽い感染の状態を人為的に作り出す(抗体とウイルスが結合し中和する)ことによつて感染を防ぐのであるが、「ADE」は抗体がウイルスに結合するものの、中和することに失敗した場合に起きる、この時ウイルスはマクロファージ(大食細胞)に突入し、増殖する。すなわちADEという副作用については、我々も十分に注意する必要があります。皆さんも慎重に対処してください。

初世紀ローマ帝国に弾圧されたキリスト教徒達はブリテン諸島に逃れ、隠れキリシタンとして生活していました。彼等の信仰は土着のドルイド教と融合し、ケルト・キリスト教が熟成され、聖公会の類型は数千年の変革を経て今日に至っています。聖公会の中心となる教義は、イエスキリストの十字架上の死と甦えりであり、重要な聖餐サクラメントは、洗礼と聖餐であります。そして信仰にもとづいた真実の自分と真実の嘘みとの語り合いである祈りと、喜びの聖歌を歌うことが大切とされています。復活の命は今も続いていきます。何故生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方はここにおられない、復活なさったのだ。ルカ二四・五・六。ともに祈っているときには主はその中に居るのである。マタイ一八・二〇。「人々を救い続ける永遠の命」中世の終り、山に登る人々の安全を祈り続けた英国シトー会の修道士達が世の人々の為に無心で捧げた祈りは、その後数世紀を過ぎ、修道院が廃墟となった今も生き続け、世界の山々にまで響き続け、多くの遭難者達を導き、昔と変わらぬ姿で人々を救い続けています。日本においても、その例が見られます。これが決して思い込みではないという確信を与えてくれる記録があります。一九八三年、イギリス医学雑誌ブリティッシュ・メデカルジャーナル誌に、イギリス医師、レックス・ガーナー氏が書いた記事です。彼は人々の祈りによって起きた現代と中世の奇蹟を報告しています。一、現

代の例はドイツの教会の修道女に纏わる実話です。彼女達が礼拝堂の建設をしている最中、シスターの一人がながしこんだばかりの床を突き抜けて落下し、病院に運ばれ、レントゲン写真撮ったところ、骨盤が複雑骨折していました。その時シスター達は通常の医療に頼らず、昼夜を徹して祈り続けました。事故から数日後、シスター達は祈りながら、骨折したシスターの体に手を当てると、その直後に彼女はベッドから起きあがり、二週間後には完全に治癒したという話です。二、もう一つは七世紀のイギリスの歴史家で神学者

論壇

朝は鳥になってあなたを目覚めさせ 夜は星になってあなたを見守る

人財能力開発コンサルタント

フレグランササイコロジスト パウロ山田征夫

であるベーター氏が残した記録を採りあげています。ベーターはキリスト生誕年の使用を普及させたことで有名な「イギリス国民の教会史」を記した人物です。それはイギリスのヘクスムという土地で、教会を建設中に起きた出来事です。ある石工が、かなりの高さから落下し、死を迎えようとしていました。その土地の司祭であった聖ウィルフリット氏は、その石工に祈りを捧げ、他の作業者達も祈りに加わり、皆一緒に祈ると、その石工の命の息吹が蘇りました。多くの人々によって毎日行われている世界の人々の祈りは希望をもたら

し、愛の波動となって、必要な人のところへ祝福をもたらして、命は永遠に繋がれているということを示してくれています。私はこれまで空間に描く、にのいの調合の仕事を経験して参りました。心のカンバスにいろいろな香調を組み立て、三角のピラミッド状のバランスのとれた一つのキャラクターに仕上げてゆく音楽の作曲と似ています。今日の私達の様なキリストや聖書のない古代の人々は、何を祈っていたのでしょうか、古代の人々の精神体験として自然の中で太陽や生命の不思議さや、植物の種から花や野菜が生長する宇

宙の気のエネルギーを感じ、魂の祈りの深さは私達より深い心の力によって、自然界の全ての存在がエネルギー、気を発していて、その気を感じてこそ自分が生きていると感じていたことと思います。人間はそもそも祈る存在であり、本質的に人間は宗教的存在で、祈ることは人間の自然本性であると、祈りの人間学者は語ります。信仰生活は即祈りであり、与えられた生命は祈りによって日々新たにされ聖霊によって導かれ、魂が祈ることそれ自体が救いである。祈りは招き導きとなる。い(生)の宣りは生命がその本源から湧き出

て流れ出る生命の宣言でありいきいきと生きることだと述べています。息をすることが自覚的に深められて生命の根源聖なる言葉との結びつきにおいて息をするとき、それは祈りになると述べています。使徒パウロは信仰をもって祈り続けなさいロマ・一二・一二と言っています。神との対話、キリストの再臨の時迄私達を導く祈りを続けましょう。主よ！生涯を通して御心に導かれ、日々の暮らしの中で出会う兄弟姉妹の為に惜しみない愛を抱いて接し、祈ることが全ての喜びの源となり生き甲斐となります様に。主に感謝します。今度多くの祈りの書を学び、拝読させて戴き、宣教の道にある聖職者の方々に心から感謝します。今こそ宇宙を創造せし父なる神の自然と共存する社会を人類と地球と共に移行できることを心から祈ります。

引用資料

・聖公会神学者「サクラメント」

サイクス&マコーリー各位様
「新約聖書」
前立教大学キリスト教学部教授

聖公会司祭 速水敏彦様
「祈り」前聖学院大学准教授
日本基督教団美竹教会司祭

左近豊様
・カリズマの祈り

スタンフォード大学教授
・聖心女子大学キリスト教教授

修女
・黙想の家 司祭、祈りの書

鈴木秀子様
プラチド・イバニエス様



新型コロナウイルスによる臨時特集⑨

夢見る永劫無限な連鎖を生きる私達

「コロナパンデミックを乗り越えるために」

原 慶子

はじめに

このコロナ特集も今回が最終回となるようです。二〇二〇年初頭からじわりじわりと蔓延を始めたCOVID19は三年目となり、世界中の人々のライフスタイルを変え、人と人との出会いを極力制限し、人間の会話能力を後退させ、本当に退屈極まりない、活気のない社会環境が普通となりました。わたしの回りにいる人々もそれが当たり前となり、粛々とワクチンという国家権力に依り頼み、あきらめなのか、妥協なのか分かりませんが、自身の生きる情熱（パッション）よりも、不安と恐怖が人格の中心を占めるようになりました。ついに最も恐れていたことが世界中の市民を席捲しているのです。そこで最終回は余り緊張らずに、COVID19そのワクチンによって奪われた真の人間性を回復するためにはどうしたらいいのかを、読者の皆さんと共に考えてみようと思います。

事実と真実

新型コロナウイルスという名称で、感染が広がり始めた頃、世界の大都会―新自由主義経済の本拠地に罰が下ったのだと思いきや、あつという間に世界の果てまで広がりました。しかし二〇二一年中は、身近な所での感染者もなく、パンデミックになっている実感がありませんでした。しかし外出制限や渡航制限、食事会、催し物、コンサートや演劇会などの中止、制限が世界規模で強化されるなかで、感染者数の増加が報道されていきました。実感の伴わない不安と恐怖が広がり、その内にワクチン接種が半ば強制されて行きました。二〇二二年第六派とかのパンデミックでわたしの身近でも「誰々が感染した」という話を聞くようになりました。このコロナパンデミックにおいては、メディアの情報が先行し、つまり数字とパーセンテージがいつの間にか事実となり、真実は見えてこない、決して報道されない、という支配者たちの暗黙の協定事項、本当の事実は隠されたまま、人間性はのっぺらぼうになり、萎縮し、

メディアの情報を丸のみして支配者の命ずるままに行動するようになりました。本当の事実は隠され、コロナパンデミックのよって来る真実も明らかにされないまま、諦めと失望、そして成り行き任せが全世界を覆い尽くしているのです。この状況が事実であり、真実なのです。

コロナウイルスは宇宙からやってきたのか

COVID19が、事実即真実という現象とは違う次元で現れ始めた時、わたしは直ぐにウイルスの勉強を始めました。と言っても読書を通してですが。それらのなかで、わたしにとって分かりやすかったのは、「破壊する創造者―ウイルスがヒトを進化させた フランク・ライアン 夏目大訳 早川書房 二〇一四年」と「ウイルスの意味論 生命の定義を超えた存在 山内一也 みすず書房 二〇一八年」の二冊です。

「ウイルスの増殖は、このウミウシが死ぬときには必ず見られる現象である。そしてウイルスは、この時にわかに性質を変え、ウミウシの体を攻撃するようになる。―中略―つまり、エリシア クロロティカ（ウミウシ）の中にいて、生きていくのに欠かせない遺伝子操作に関与したと思われるレトロウイルスが、この時には攻撃を仕掛けてくるということになる。藻類から葉緑体に必要な

遺伝子を転写し、光合成ができるようにしてくれたウイルスが突如、敵に変わるといふことだ。」（フランク・ライアン「破壊する創造者」）ライアンはこの種の関係を「攻撃的共生」と呼んでいます。さらに「恐ろしい感染症の流行と、偶然の発見がきっかけとなり、ウイルスと宿主の間にそういう関係がありうる」とを提唱しています。

「一方ウイルスは、独力では増殖できない。―中略―しかしウイルスは、ひとたび生物の細胞に侵入すると、細胞のタンパク質合成装置をハッキングしてウイルス粒子の各部品を合成させ、それらを組み立てることにより大量に増殖する。」「ウイルス核酸が細胞内で複製される際にコピーミスが起き、変異ウイルスが生まれることがある。短時間で膨大な数のウイルス集団が生まれてくるので、コピーミスのある核酸を持つた変異ウイルスも絶えず生まれている。」（山内一也「ウイルスの意味論」）引用した文章のなかに専門用語もあり、分かりにくいかもしれませんが、ウイルスは、生物が発生する以前から存在していたのであり、生物の進化に寄与してきたのです。「現在、われわれの周囲に存在するウイルスの多くは、おそらく数百万年から数千万年にもわたって宿主生物と平和共存してきたものである。人間社会との遭遇は、ウイルスにとってはその長い歴史の中のほんの一コマにすぎない。しかし、わずか数十年

の間に、ウイルスは人間社会の中でそれまでに経験したことのないさまざまなプレッシャーを受けるようになった。」（同上）山内先生がおっしゃる「さまざまなプレッシャー」とは何なのでしょう？わたしが考えるには、科学技術文明の極度の進化によるデジタル社会の人間のみならず、自然界や生物に与える、生命を脅かすような負荷とストレスが、ウイルスにとっても存続の大いなる危機になつていのでしょうか。現在人間は、新型コロナウイルス感染症の感染に怯え、人間性を見殺しにするような防衛体制を築き上げようとしています。そうすることで、パソコン、インターネット、リモート、オンラインなどデジタル全体主義にとつぱりつかっています。人間性を否定し、人間がウイルスと共に築いてきた宇宙・地球・生物の共生さえも無機質な科学技術に明け渡そうとしているのです。恐ろしいのはコロナウイルスではない、コロナウイルスに対する人間の反応です。今こそ、宇宙―地球―人間を含めた生物の自然に帰した根源的反省が求められているのです。

物質宇宙・異宇宙・神

ウイルスの勉強を始めて、改めて認識したのは、宇宙の始まりからウイルスは存在していたということだ

す。旧約聖書の創世記の冒頭は「宇宙の創造」から始まります。

「初めに、神は天と地を創造された。地はむなしく何もなかった。闇が深淵の上にあり、神の霊が水の上を覆うように舞っていた。」

宇宙は混沌とした、形のない、無限の広がりであったのです。ウイルスはその無限の広がりや自由を泳いでいたのでしょうか。わたしが想像するに、神は宇宙の一部を天と地に分けた。地球は天と地に分けられた惑星の一つです。埴谷雄高は、宇宙の根源を、人間の生と死をひくくめて探求した思想家です。彼は自身の宇宙観を「妄想実験」とし、こんなことを言っています。「生の原始の単細胞の前、この物質宇宙の粒子の前、つまり、この物質宇宙以前の『無限大』につづいているところの、多様な『異宇宙』のなかの『何か』は、自身の暗い内部のなかで、何かを夢みることによって、このいまの『私』にまで辿りゆき、つながりつづけてきました。この無限大に遠い異宇宙から私達がひきうけつづけたところの靈妙無限な《夢》を、私は、先に述べたごとく、原言語と名づけています。それなしには、存在、も、非在、も、のつべらぼう、も、暗示しえないところの原言語こそを、無理に表式化すると、こういう言葉になるはずだ。《自分は自分でない自分になりゆきところの自分である。》」（埴谷雄高・小川国夫「隠された無限 往復書簡（終末）」の彼方に「岩波書店」この長い引用にお

いて、わたしが注目したキーワードは、「物質宇宙」・無限大につづいているところの、多様な「異宇宙」・「原言語」、の三つの言葉です。私たちが一般に「宇宙」といつているのは、埴谷的には、「物質宇宙」なのです。創世記における「宇宙の創造」の宇宙は「物質宇宙」なのだと思います。無限大に遠い異宇宙は、わたくし的には神の手の内（領域）にあるのだと思います。そして異宇宙は、埴谷的には「自身の暗い内部のなかで、夢みる何か」であり、わたし的には「自身の魂に感受される靈的存在」であると思います。埴谷の「夢みる何か」、わたしの「靈的存在」の表式化されたのが「原言語」だと埴谷は言っています。わたしにとっては「神」になります。

宇宙との対話・神に聴くこと

科学技術の進化の極限において、原子爆弾・情報（デジタル）爆弾、そして科学技術の極限である、人間の体を実験台にした遺伝子爆弾に翻弄される現代社会と今を生きる人類が、一人の人間として自然になつたクリエイティヴィティ（創造性）とイマジネーション（想像性）を精神軸としてこの地球に生きるにはどうしたらいいのでしょうか？唐突に思われるかもしれませんが、異宇宙に存在する原言語との対話、そして神の語りかけに耳を傾けることで

す。「生と存在」のすべてを、絶えざる変幻のなかに駆りたてるところの無限永劫の夢を夢みる大暗黒のなかの根源を、私は『無出現』と名づけました。」（同上）埴谷は迷惑に思ふかもしれませんが、ここでいう「根源」「無出現」を、わたしは「神」(The God)と名づけたと思います。無出現の「神」は現宇宙を超えた異宇宙から、私達の魂一つ一つに語りかけているのです。

現代人のほとんどは、原言語の存在を意識することもなく、自己の体の外側からむやみやたらに押し寄せてくる事実無根の情報に押し流され、あなたの魂に語りかける原言語を聴き取ることができなくなっています。聴き取ることができるようになるために、私達はどんな努力をしたらいいのでしょうか？まず大空を見上げ、太陽のまぶしい光、月の控えめな光、昼と夜の変化、闇夜にきらめく無数の星を体感すること、そして地球に生きる様々な生物、自然のたたずまいに愛着をもつこと、それらを通して神の真意を感じ取ること。神の真意を美しい形にする行為が「芸術」なのだと思います。音楽、絵画、彫刻など様々な方法で表式化する行為は、無出現の宇宙の本性を、真・善・美という形にすることなのです。一人でも多くの一人ひとりが、異宇宙からの無限永劫に続く神の声に耳を傾けたいという思いを抱いてほしいと祈ります。

春の墓参会

新生会では、去る三月一日（金）に、七八回目の墓参会を無事に行いましたことをご報告いたします。

今回の墓参会も前回の秋の墓参会同様に新型コロナウイルス感染対策を行い、法人内の居住者と職員のみと参加者を縮小し、また密を避けるため、午前、午後の二回に分けての実施となりました。

当日は雨天で肌寒い日となりましたが、二回の墓参会には五三名の参加者と共に八幡霊園の霊廟に埋葬されていらっしゃる新生会の御縁のありました皆様を偲び、ご冥福をお祈りしました。



ネットワーク 設備拡張工事

この度、誠の園では令和三年度地域医療介護総合確保基金事業補助金（介護従事者各補文）「介護ロボット等導入支援事業」より助成を受け、一階フロアのネットワーク環境の整備を行いました。

居住フロアである三階から六階までは既に整備されておりましたが、共有フロアについては独立したネットワーク環境にありました。今回の整備工事により誠の園の全フロアで一つのネットワークが構築されたことで、ケア課と看護課とのインカムによるタイムリーな情報共有と連携が行えるようになりました。

今まで以上にきめ細やかなケア提供を迅速に行い、居住者の方々の生活をしっかりと支えていきます。



二〇二二年度 「新任職員研修会」

三月二三日（水）～三月二五日（金）の三日間で二〇二二年度「新任職員研修会」が開催されました。

今回の研修会には四月一日就任の方と昨年度の途中就任の方を含め、計十一名が参加。一日目は原慶子理事長をはじめ、各施設の施設長による講義が行われました。講師の方々の熱心な話に、新任職員の方も真剣に耳を傾けていました。また、午後には各施設の見学を行い、普段は見る機会のない場所を見ることができ貴重な機会になった、との感想が聞かれました。

二日目と三日目の午後は各施設に分かれてワークを行いました。四月



原慶子理事長による講義

一日就任の方は配属予定の施設で、既就任者の方は、所属施設とは異なる施設でのワークです。二日間のワークを終えて、実際の現場で働くイメージを膨らませることができた、施設ごとの特色に触れて新しい発見があったとの声が聞かれ、各々が多くの学びを得ることができた様子でした。

最終日の朝には毎週月・水・金に礼拝室にて行われている「職員朝礼」に参加。共に祈りをしました。

また、昨年から新たにプログラムに取り入れた「ふりかえり」の時間では、一日を振り返って感じたこと、これからの意気込みを共有してもらいました。三日間という短い期間ではありますが、充実した研修となりました。



ワークにて



朝礼に参加

ホームアクト

介護付有料老人ホーム

新生の園

レクリエーションの会

昨年の夏からお試し期間で取り組んでいましたが、皆様から好評いただき、この度、正式にレクリエーションの会として始まりました。

お体の様子に合わせてそれぞれのプログラムを月一回づつ。計二回の開催です。その月に行う内容に関しては、担当ごとに皆さんに楽しんでいただけるよう企画しています。鑑賞系、創作系、体を動かすものなど、いろいろとアイディアを練っていますので、それぞれのカラーや工夫も含めて、職員も楽しいひと時と学びになっています。

コロナ禍

で、外へ出かける機会はありませんでしたが、こういった園内での企画も大事に続けていきたいと思います。

(中澤)



紙芝居が始まりました



ペットボトルを倒せ



風船を狙った的へ



紙粘土で創作です

健康型有料老人ホーム

マリヤ館

季節感を大切に

コロナ禍でのお出かけはどうしても近場になってしまいます。季節の行事は大切にしたいので、初詣は山名八幡宮に行つて来ました。今年こそ普通の日常が戻りますようにとの願いを込めてお祈りしてきました。

最近、テレビで群馬県を取り上げた番組がよく放映されています。群馬って旧石器時代まで遡れるとっても由緒ある場所なんですね。コロナ禍を逆手に取って群馬の魅力を皆さんに知って頂く良い機会にしたいです。山名八幡宮も由緒ある神社でした。



良い日でした



童心に帰れます



盛り上げ隊です

二月は節分豆まきです。毎年鬼さんが大活躍下さり、賑やかで楽しい節分になります。歴代の鬼さんから、お面と心意気そのまま引き継いで場を盛り上げて下さり感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。

(中井)

介護付有料老人ホーム
穂和の園・桜の園

春

生活も行事も慎重に検討、方法を選択するようになったコロナ禍も三年目。移行行く季節を五感で楽しむ機会は少ないままです。マスク着用感染症対策の中「お菓子レクリエーション」では、皆様にほんの少し腕を振るっていただきました。お花型に焼いた食パンに餡バター、果物をお好みでトッピング。目で味を想像し、パクッと頬張った苺の酸味に「春」を感じていただけたでしょうか。



「甘味処 穂和」



おいしくできました！

下車散策なし、分乗ドライブでの「観梅ツアー」。満開の梅林前では窓を開け、柔らかな風を肌で、香りを鼻で「春」を感じるひと時。すそ野が美しい赤城山、残雪の浅間山を眺め、車中のおしゃべりも弾みました。



眺めも最高！



車窓から観梅♪

来年こそ売店の甘酒や露の臺入り焼きもちのお楽しみありの恒例「観梅ツアー」でもっと「春」を満喫できますように。

(北野)

軽費老人ホーム
バルナバ館

紅薔薇

二月一二日、卒寿を迎えたバルナバ館居住者のもとへ大きな紅バラの花束が届きました。送り主は「榛風句会」という俳句の会の方達からのことでした。館内のロビーや玄関に飾って下さいと頂きました。

バラの花言葉は「愛」。昔から想い人へ気持ちを伝える花として用いられているそうです。贈る本数にも意味があり、二〇本は感謝、二五本は幸せを祈っています、そして五〇本は恒久（永遠に変わらざる不変の意）。

句会は解散することになるそうですが、非公式な句作の交換は今も続いているそうです。コロナ禍で面会



素敵なお薔薇、ホールにて

制限がある中、仲間と会うことは叶わないけれど、今までありがとうという感謝の気持ちが伝わってくる出来事でした。

館内にバラを飾って数日後、バルナバ館居住者より「飾ってあるバラをドライフラワーにしたい」とのお話がありました。バラが元気なうちになるべく早く乾かすことが大切とのこと。

二週間後、さらに深みを増した色に仕上がったバラを持って下さり、バルナバ館ロビーに飾ることができました。まだまだ長く楽しめそうです。

バラを贈られた方の俳句をご紹介します。

「紅薔薇や

ロビーに咲いて見事なり」

「紅薔薇の

気品を永久に保ちたし」

(一場寿子)



綺麗に仕上がりました！

軽費老人ホームA型 榛名春光園

手打ち蕎麦

いつしか春光園の看板メニューとしての地位を築き上げた手打ち蕎麦。蕎麦打ちの基礎は元春光園職員の関調理員より教えていただきました。水回し、捏ね、伸ばし、切る。この一連の作業が重要で少しでも手を抜いてしまうと、美味しい蕎麦はできません。手打ち蕎麦の日は、調理セクションの職員全員が出勤し全身を使い汗をかきながら作っています。その努力の成果が形になり、多くの方に美味しいと言われるようになり、味に飽きが来ないように、鴨蕎麦、胡桃蕎麦、とろろ蕎麦、山菜蕎麦など、バリエーションも豊富です。これからも手打ち蕎麦を美味しく召し上がっていただくために、蕎麦のコシや鼻から抜ける蕎麦の香りなどを追求していきます。そして、居住者の皆さんを唸らせる美味しい蕎麦を提供していきたいと思っています。(松本貴昭)



伸ばす 捏ねる 切る



こだわりの手打ち蕎麦はまさに絶品!!

CWとして大切にしている心

春光園は個性豊かな居住者八〇名が生活をされている、自立された生活が基本の軽費老人ホームです。私たちCW(ケアワーカー)は、生活支援を行いながら、身体介助が必要な方には新生会の在宅サービスを基にしつつ柔軟にサポートしています。

居住者からの発信を逃さないためには「話しやすい環境」が必要だと考えます。そのためには職員間の情報共有を大切にしながら仕事をしています。今は、コロナ禍で外出が制限されていますが、各々のニーズに合わせた丁寧な個別対応を心掛けています。時には難しい判断を迫られるケースもありますが、他職種の職員とも協力して、その人らしいシニアライフが送れるよう努めています。これからも、人としての繋がりや、心の声に耳を傾けつつ、真心こめて生活を支えていきます。(井上章子)



コミュニケーションがケアの基本です!



CWミーティングの様子
個々に合わせた最善の方法を考えます

養護老人ホーム 恵 泉 園

なんとか外出イベントを

通常であれば、大々的に外出行事を楽しむ恵泉園ですが、この二年余りの自粛生活の中、社会情勢をにらみつつ、どうしても少しでも、皆様に楽しんで頂けるか模索しながら実施してきました。やはり、外出できた時の喜びはひとしおです。園となじみの深いお店に依頼して、なんとか和洋中をコンプリート。居住者の嗜好を確認し、事前にオーダーします。各店の協力あつて、満足、満腹で帰路につくことが出来ました。



亀鶴庵にて



桃の花貸し切り



フルール・アンジェリーナ貸し切り

さて、恵泉園の春のお出かけイベントと言えば観梅ツアーです。春の訪れを感じると共に、居住者の心をパッと明るくしてくれます。三月中旬が見頃を迎えた梅林ですが、この日はあいにくの雪。箕郷梅林の蟹沢会場、善地会場の小道、わき道と、様々な角度から巡回。窓を開けるのもためらうほどの寒い日となりましたが、窓越しから漂う香りや紅梅・白梅に見とれ、「きれいだねー」「雪と合わさって風情があるね」と感嘆の声が聞かれました。今回は、特別な観梅ツアーとなりました。(下平)



箕郷梅林、善地会場にて
こんな日だからこそ会場はほぼ独占!



車窓からしだれ梅
雪が枝葉に乗りきれいでした

特別養護老人ホーム

榛名憩の園

今年も鬼が来た

二月三日、榛名憩の園では節分の豆まきが行われました。今年もコロナウィルスの影響で例年通り大規模でやることはできませんでしたが、各フロアごとに豆まきを行うことができました。突然金棒を持って居住者の目の前に現れた鬼に対して、驚く方もいれば正体に気付いてニコニコする方もいました。みんなで声を合わせて「鬼は外、福は内」と言いながら鬼退治が始まりました。気を遣ってくれてやさしく投げってくれる居住者やおもいきり豆を投げて全力でイベントを楽しんでくれる居住



笑顔の為に頑張ります！

今日のMVP



者もいました。鬼はたくさんさんの攻撃を受け降参しました。最後に鬼と居住者一人一人記念撮影を行い無事笑顔で豆まきは終わることができました。また、来年も鬼がリベンジに来るかもしれません。

コロナウィルスが蔓延してワクワクを打つても中々終息する気配がありません。その為、今まで当たり前になっていたイベントが中止になったり、家族との面会も制限されストレスが溜まってしまっていると思います。ですが今できるイベントなどで楽しんでいただき、コロナウィルスが終息して当たり前の毎日が戻り、居住者の笑顔がもっと増えることを願っています。

(中澤誠)

特別養護老人ホーム

誠の園

努力は必ず報われる

小さな努力も続けていけば成功できるという意味で「三流船籍」という言葉がある。最近の誠の園では何をしているかというと、毎月季節の手作りおやつイベントを開催している。新年会・ひな祭り・バレンタインにホワイトデー。外に出られずなかなか季節を感じられない昨今、少しでも楽しめと潤いをとということで始まったのがこの企画。会を重ねるごとに内容もブラッシュアップされ、大変好評をいただいている。参加者からもリクエストが殺到し、企画する側もよいじゃあない。

イベントと言えれば外せないのがやはり「映え」である。全国各地から取り寄せた銘菓とスイーツをデコレーションすることで「映え」るところは鉄板だ。そこに季節のドリンクを添えることも忘れない。



さらにお口だけではなく、心も満足させるのがプロってもんよ！毎回会場では生のピアノ演奏が行われている。ゲストは佐野仁久氏、かの有名なピアノリストである奥様に師事を受け、彼の奏でる音色はワールドクラスの呼び名が高い。いびつで頼りない音色が逆に観衆の心を引き寄せるのか、どこからともなく始まる大合唱。会場の熱気は最高潮で、まさにモアファンタスティック。

ここで伝えたいのは、初めから諦めるのではなく、幾つになってもチャレンジすることで良い結果につながるということである。汗をかきながら鍵盤をたたく姿に感動しつつ「三流船籍」の言葉が心に浮かぶ。新年度も居住者とスタッフともに、楽しく元気で過ごせますように。

(小野沢剛昌)



最高の音色に気分は上々!!

特別養護老人ホーム エンジェルホーム

ハッピーウエディング

今年、エンジェルホームに素敵なカップルが誕生しました。ケアワーカーの富田優太さんと萩原里恵さんです。二人の幸せな報告を聞き、サプライズでお祝いをしようと、ウエディングパーティーを企画しました。

決行日は三月一日。朝から極秘に準備が進められました。コストコで注文したケーキが冷蔵庫に入らないハプニングもありながら、ついに決行の時がやってきました。まず二人にアイマスクで目隠しし、新郎は車椅子に座らされ、新婦はヘッドフォンをつけ別室へ。さあ、ここから飾りつけです。食堂にバージンロードを作り、ハートのバルーンで飾りつ



あま〜いウエディングケーキ

け。新婦には手作りのベールとブーケ、新郎にはブートニアをつけて、いよいよパーティーの始まりです。結婚行進曲をスタートの合図に、新郎新婦は驚きながらも、素敵な笑顔でバージンロードを歩いてくれました。参列者は居住者の方々です。二人がメイン席に座ると、名司会者の吉川園長の掛け声とともに、みんな

で「結婚おめでとう」とクラッカーを鳴らして盛り上げました。ここからは本当の結婚披露宴ながらに、居住者の方から祝辞を賜り、ケーキ入刀&ファーストバイト、ドリンクサービスをし、吉川園長力作の余興ムービーを見ながらウエディングケーキをいただき、幸せをみんなで分かち合いました。質問コーナーの後、二人の誓いのキスで、ウエディングパーティーはお披露喜（おひらき）となりました。極秘計画でしたが、みんなで楽しい時間を過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

サプライズ！大成功！

（閑）



愛の共同作業♡

HALC自然学校

はるな自然体験クラブの活動

新生会内の施設に居住されている方の任意の会員制「はるな自然体験クラブ」（新生会HALC自然学校が活動支援している）の二〇二二年一月から三月までの活動をご報告いたします。

一月は新生会周辺を散策する「お散歩自然観察会」が三回予定されていましたが六日・一四日は実施できなかったものの中旬以降は全国的なコロナ感染拡大に伴い中止となりました。一月二七日には新春特別企画の第一弾として「地域の野鳥」と題して榛名地域のNPO法人アグレコ法人代表者・丹羽牧人さんによる講座を昨年に引き続き予定しており参加希望者も多く楽しみにしていましたがこれも中止となり今年は心泉の家で特別企画ができないままに春を迎えることとなりました。

二月も一月と同様にお散歩自然観察会と特別企画を計画したものの、全国的に感染拡大が収まる様子もなく群馬県もまん延防止等重点措置の適応を受ける中、新生会内の施設横断型クラブ活動も休止せざる負えない状況下で、はるな自然体験クラブも活動を見送ることとなりました。

三月に入り、まん延防止等重点措置の延長などがあって思うような活動には至りませんでした。ウメの花が咲き、春の訪れを感じる陽気になりました。はじめた三月二五日にお散歩自然観察会を再開し、午前の部に八名・午後の部に四名の参加がありました。

また昨年から始まりました「生物季節モニタリング調査」（気象庁・国立環境研究所が共同で気候変動などの環境変化が与える影響を評価する為の基礎データ調査に協力するもの）の一環で、心泉の家周辺のクリ、サザンカ、ソメイヨシノ、ツバキ、ウメ等を標準木として設定し、はるな自然体験クラブオリジナルの表札を木に着けましたので注目していただければ幸いです。

（稲垣）



心泉の家前の標準木“くりの木”



榛名荘病院前の桜
その後ろは榛名山麓



心泉の家駐車場の“やまぶき”

居宅介護支援事業所 フリーアについて

コロナ禍の活動

長引くコロナとの生活は私たちのケアマネ業務にも影響が出ており、日々感染対策をしながらの業務となっています。

毎月一回はモニタリングにお宅を訪問し、通常なら様々な話をしながら行うのですが、今はできるだけ短時間での訪問を余儀なくされています。本当はもっと話を聞いてもらいたいと感じている方もいらっしゃると思います。こちら心苦しいですがお互いが気を使いながらの訪問です。（つい話が長くなってしまう時もあります）またマスクをしての会話の為表情もわかりにくく、私たちケアマネの素顔を知らない方もいると思います。

そんな中でも学びは止めてはいけなため、地域のケアマネジャー同士で事例検討会をコロナが落ち着いていた令和三年一〇月に行うことが出来ました。短い時間でしたがコロナ禍で苦労している事や不安に思っている事も相談でき、とても良い機会になりました。動画視聴やオンラインでの研修も多くなりましたが、やはり集まって研修する、ちょっとした雑談をしたりすることも大切な

事だったのだと改めて気付くことが出来ました。

普段から感染症だけではなく自然災害等でサービスが止まった場合も想定して地域資源や地域連携、代替サービス等も常に意識し検討していかなければと実感しています。

寒かった冬も終わり、三月に入り梅の花が一斉に咲きました。季節が移り替わるように、今の日常は非日常の事だったと後に思い出話となるよう、引き続き感染対策を続けながら願うばかりです。

（原）



事例検討会の様子

こかげ

— 職員の広場 —

新生会 人 紹介

- ① 出身地 ② 職種 ③ 趣味・特技
- ④ 好きな有名人 ⑤ 自分にとって一番の贅沢は ⑥ 好きな言葉

新生会診療所

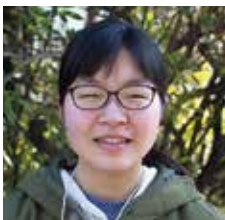
鈴木 忠（スズキ タダシ） 77



- ① 千葉県船橋市
- ② 医師
- ③ 乗馬
- ④ 新渡戸稲造
- ⑤ 愛犬との散歩
- ⑥ 感謝

エンジェルホーム

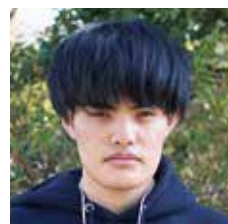
野口 琴美（ノグチ コトミ） 18



- ① 高崎市
- ② ケアワーカー
- ③ 読書
- ④ 夏川りみ
- ⑤ 好きな食べ物をおなかいっぱいに食べること
- ⑥ 初心忘れるべからず

新生の園

似鳥 七晟（ニタドリ シチセイ） 22



- ① 秋田県
- ② ケアワーカー
- ③ スキー、野球観戦
- ④ 中田敦彦（オリエンタルラジオ）
- ⑤ 旅行
- ⑥ なんとかなるさ

榛名憩の園

野村 恵子（ノムラ ケイコ）



- ① 水上市
- ② 看護職員

フリーアほほえみ

岩津 志保（イワツ シホ） 39



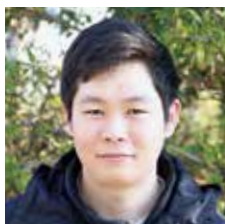
- ① 高崎市
- ② 訪問介護員
- ③ 手芸・誕生日を記憶すること
- ④ 星野源
- ⑤ 時計を見ないで過ごす休日
- ⑥ 日々是好日



櫻井 裕佑(サクライ ユウスケ) 34

桜が丘食養課

- ① 高崎市
- ② 調理員
- ③ パン作り
- ④ 石田三成
- ⑤ 蒙古タンメン中本のラーメン
- ⑥ 神はサイコロを振らない



福田 晃司(フクダ コウジ) 24

誠の園

- ① 高崎市
- ② ケアワーカー
- ③ ゲーム・スポーツ・子どもと遊ぶ
- ④ ミスチル
- ⑤ 好きな物を食べる
- ⑥ 楽しむ



中田 千秋(ナカダ チアキ) 52

榛名春光園

- ① 青森県弘前市
- ② 清掃
- ③ 音楽鑑賞
- ④ なし
- ⑤ 1人ではないこと
- ⑥ 初心忘れるべからず



会長：野澤慶太(新生の園)
副会長：佐野仁久(誠の園)・鈴木昌子(法人本部)
監査役：上野一也(法人本部)・富沢明美(法人本部)

二〇二三年 睦会始動!!

二〇二二年度睦会会長の野澤慶太です。一昨年より、新型コロナウイルスの影響にて、皆様が楽しみにされている睦会企画の行事が中止になりました。今年度は感染対策を十分に行い、実施に向けて準備していく所存です。

活動開始に向けて、睦会役員・幹事一同、「明るく、元気に、前向きに」一致団結して頑張ります。

また、支えてくださる周りの仲間、家族に感謝の気持ちを持ちつつ、応援していただけるよう取り組んでいきたいと考えております。

どうぞよろしく願ひ致します。

睦会会長 野澤慶太



法人本部 財務部
柳澤 智弘さん

三児の父親であるイクメンパパ、財務部の柳澤智弘さんを紹介する。イクメンと言っても子どもはもう六年生と四年生(双子)だ。土日は休みたいという気持ち裏腹に、少年野球の練習や試合のために朝から子どもたちの弁当作りに励んでいる。

その料理の腕前は高く、もつ煮やカレーなどこだわりの料理の数々は食べた誰もが認める美味しさだ。また試合では、たまちゃんのパパを思わせるカメラマンへ変身し、我が子だけでなく野球チーム全員をカメラの充電が続く限り撮り続けている。

もうひとりの私⑪⑧

財務部所属で仕事柄計画を立てて実行していくことを業務としているが、プライベートではなかなか計画通りとはいかず、二人目の子どもが双子だと判明すると、当時勤務していたJAを退職し新生会の門戸を叩く。趣味の資格取得で当時新生会でやっていたホームヘルパー二級講座を受講中に双子が判明し、資格取得後ケアワーカーとして誠の園へ就職した。

ハスキーボイスが魅力的で半沢直樹の俳優さんにそっくりだと理事長のお墨付きである。加えてよく通る声なこともあり、遠くにおいてもこの声はもしやと思うと予想はだいたい当たる。そんな彼だが最近では双子ちゃんの娘に少し早めの反抗期が訪れていて、「うざい」とあしらわれてしまうこともしばしば。めげずに頑張つてほしいと思う。

「誕生日誌」

・櫻井 瑛里奈
(さくらい えりな) ちゃん
3月11日生まれ
(桜が丘食養課
櫻井 裕佑さん第1子)

・手塚 蒼大
(てつか あおい) くん
3月11日生まれ
(あんしんセンター 新生会
手塚 勝洋さん
梅香ハイツ バルナバ館
手塚 友希さん第1子)



マリヤ館
堀内 秀代さん
(八五歳)



多野郡新町の駅前旅館で四人姉弟の次女として生を受け、稼業の手伝いをする働き者でした。三歳年上のお姉さんが旅館の二階の廊下掃除を担当で、秀代さんは一階の廊下掃除を担当し毎日雑巾がけをしました。当時は鐘紡の工場や自衛隊、物売りの商人さん達が年中旅館を利用して、子ども心に忙しい家だと思っていました。

お姉さんが幼稚園に通う歳になりお寺の幼稚園に行ってみたがどうしても通う事ができず、新町幼稚園なら人数が少なく通えるかもしれないという事で行ってみたら通えたので、以降姉弟全員が新町幼稚園に通いました。それが聖公会との出会いとなり以降人生を共にする大切な支えになりました。

高校は高崎女子高校に進学しましたが家の手伝いは相変わらず続き、「勉強しているかと思つたら寝ている」とお母さんに言われる位勉強はしなかったそうですが、試験では良い成績を取っていました。高校卒業後新町幼稚園に遊びに行きそのまま就職しました。資格がなかったので仕事をしながら玉川学園の通信教

育で幼稚園教諭の資格を取りました。当時の同僚にご主人の妹さんが居て「兄が東京から美味しいお菓子を買ってきたので遊び来ない」と誘われ、お菓子を目当てに行きました。それがお見合いだったと後で知りました。真面目な人柄に惹かれ結婚。これを機に所沢のこぶし団地に引っ越しました。

暫くして新聞に幼稚園職員募集の広告を見つければ、教会の幼稚園だろうと目星を付けて面接に行き、その場で採用が決まり所沢こひつじ幼稚園で働き、その後川越の聖公会幼稚園で働く事になりました。川越ではクラスを持ちながら園長の仕事も加わりそれはそれは忙しく、家庭と仕事の両立でへとへとなるまで働きました。ある時夕食を作つてご主人の帰りを待ち九時過ぎにご飯を食べるとそのまま横になつてしまいました。気付くとご主人が食器を洗っている姿が目飛び込み「主人も仕事で疲れているのに申し訳ない」と反省し退職することにしました。

ご主人は真面目で働き者でしっかりされていたので老後の生活設計を考へるにあたり、新生会の「最後までお世話させていただきます」の理念に感銘しマリヤ館に入居されました。昨年ご主人が突然亡くなり二ヶ月後に妹さんも亡くされるといふ辛い経験をされましたが、笑顔が戻り安堵しています。



ユニ・チャーム株式会社
プロケア営業本部首都圏第2支店
ライフリーケアアドバイザー・コーディネーター
大塚 早苗さん
おおつか さなえ



「新生会の誓いの言葉に触れる度に、自分をやる気にさせ、学びの気持ちがあふれてきます。新生会との出会いがなければ今の自分はいません。」

そう力強く語つて下さったのはライフリーケアアドバイザー・コーディネーターである大塚早苗さん。ユニ・チャームなくして新生会の排泄ケアは語ることができません。布おむつが主流だった頃から、ユニ・チャームと新生会は二人三脚で排泄ケアに取り組んできました。

大塚さんは、以前小売業で買い付けの担当をしていましたが、心身ともに多忙な毎日を送っていました。そんなとき、祖母の介護が必要になり、当時の取引先でもあったユニ・チャームのユーザーを第一に考える商品提供の理念に惹かれたことが後押しとなり、二〇〇四年にユニ・チャームへ転職されました。

大塚さんは施設や病院で生活されている方々の満足度の向上、働く職員の心身の負担軽減に真摯に向き合

い支えていくことを軸に、日々の仕事に取り組んでいらつしやいます。アドバイザーという役割は、お一人おひとりの生活の質を上げること

はもちろん、商品説明だけでなく排泄ケアの方法や感染症対策、コスト管理等、内容は多岐にわたります。新生会では数ある施設を回り、施設ごとの取り組みについて職員との情報共有、理解を深めるための研修会の開催はもちろん、時には現場に入り、職員に対し個別にアドバイスもして下さっています。

個人が抱えている悩みや問題を全体で共有し、支え合うことはユニ・チャームでも新生会のケアにおいても共通して大切にしていることだと大塚さんはおっしゃいます。自身も仕事の仲間だけでなく家族に支えられて今の自分があるとお話されていました。今後は自分の経験を後輩に伝えつつ、変わらず現場に寄り添い、支えていきたいと語る大塚さんは、活き活きと輝いていました。現場を第一に考える大塚さんの挑戦はこれからも続きます。

文
芸

梅香ギャラリー



心にやさしさ思いやり

バルナバ館

山本榮三郎さん

書道展



語らざる心(意) 不語心悠哉
悠なる哉



どんなことを築き上げても、さらに先があるからまた一歩前に進みなさい
百尺竿頭進一歩



明るくさえた月かげは、白き光を地に流している
名月流素光

俳句

春めぐり人は替はれど花の園

福田 絃晴

春暁や鳥啼き競ふ榛名里

三浦 修

深々と無音や山地の朝の雪

山に向く窓を開ければ春の月

川柳

オーサム

ハーモニカ吹きつつ友は天国へ

タイガーマン唸り声あげ闊歩する

じゃれ合って猫と彼女は女友達



ケアに生きる
(144回)

デイサービスセンターフィリア
チーフケアワーカー
原田 和美

私の所属するデイサービスセンターフィリアは、春になると南の窓際一面が見事な八重桜に包み込まれます。フィリアを象徴する色は桜色です。桜色は人の心を優しい気持ちで包むといわれています。私たち職員は、その桜色のユニフォームで日々仕事に励んでいます。

思い返せば一九年前、友人の勧めで、新生会の訪問介護員研修を受講することとなりました。期待と不安の中でしたが、次第に介護の仕事に魅力を感じ、新生会で働いてみたいと思うようになりました。榛名憩の園が移

転改築されると共に、私は希望していたデイサービスセンターで働くことが決まり、喜びと緊張の中、仕事に就いたことを今でも鮮明に覚えています。

介護現場では、限られた時間の中で業務を果たしながら、利用者様の些細な変化に気づける観察力や心配りが必要です。呑気な性格の私に務まるのか不安もありましたが、「ここに来るのが楽しみ」「今日は一日楽しかったよ」利用者様から喜びの声、あたたかなふれあいを通し、やりがいを感じるようになりました。介護の仕事は辛い事や大変なことも多くありますが、人と人との繋がりを実感できる素敵な仕事です。これからも笑顔絶やさず、共に働く仲間と力を合わせ、「フィリア友愛」のケアに励んでいきたいと思っています。

冴え返る過ぎしを思う彼の葬

新生日誌

（1月）

新年初朝礼

お散歩自然観察会

職員朝礼にて成人のお祝い

2名

お散歩自然観察会

職場体験受け入れ

職員採用試験

職員採用試験

内閣府委託調査「就職氷河期

時代の中途採用及び職場実

習・職場体験等（社会人イン

ターンシップ）に関する調査」

ヒアリング

職員採用試験

（2月）

職場体験受け入れ

BCPオンライン研修

障害者雇用納付金制度事務説

明会（ポリテクセンター群馬

1名出席）

職員採用試験

職員採用試験

新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第一班

新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第二班

新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第三班

日本介護福祉士学会ZOOM

発表

15日 新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第四班

16日 ぐんま就活淳部オンライン

フェア オンラインによる企

業説明会 1名受講

群馬県主催第2回求人広告制

作活用セミナー（オンライン

による）

17日 新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第五班

21日 新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第六班

24日 新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第七班

25日 群馬県若者就職支援センター

主催オンラインで差をつけ

ろ！説明会編 1名受講

（3月）

1日 新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第八班

2日 群馬バース大学合同進路相談

会（ビエント高崎 2名出席）

3日 上毛新聞社主催ぐんま就活

フェア（Gメッセ群馬 2名

出席）

睦会総会

新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第九班

8日 新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第十班

10日 就職説明会 1名来会

14日 21・老福連養護研修会（オン

ライン）

15日 八幡霊園清掃

新型コロナウイルスワクチン接種3回

目第十一班

17日 18日 職場体験受け入れ

18日 春の募参会 午前・午後実施

23日 25日 新任職員研修会

29日 職員採用試験

就職説明会 1名来会

外壁塗装支援

－新生会後援会便り－

陽春の候、皆様からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。新しい年度を迎え、今年度も新生会の諸事業に後援会を通して皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

HALCセンター建設のための特別募金累計
16,026,128円（2022年3月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

○個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

○法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594
加入者名 新生会後援会
銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金0075469
名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。



ホームページ <http://www.sinseikai.org/>
E-mail human-office@sinseikai.org

編集後記

梅が満開の中、新人職員研修会が、行われています。中途採用の方・新卒の方、多様な方々がいます。それでも、全員から感じるのには、フレッシュなエネルギーです。緊張しているのを感じられます。

ここ数年の世情の不安定さにより、ネガティブな思考に落ち込みそうになりますが、新生会に夢を抱いて就職する若者たちがいるということとは、明るいニュースであり、新人職員と言葉を交わし同じ空間にいることは、改めて、自分自身のあり方を見直す良いきっかけになります。

新生会には、「誓いの言葉」があります。これは、何も居住者に限ったことではなく、職員同士がお互いに全力で良い労働環境を作るという姿勢につながっていると思います。これからも、居住者・職員・後援会等々関係する人々が、楽しく過ごせることを祈っています。

（原 孝洋）

表紙の写真

ハナミズキ…富岡市南蛇井にて

新生 第45巻 春号

発行日 令和四年四月二〇日

編集兼 社会福祉法人新生会

発行人 原 慶子

〒370-3347 群馬県高崎市

中室田町五九八三

電話 〇二七（三七四）一五一